

今号の ■ ネット健康問題 乳幼児支援者 1 日研修会の報告

トピックス 「スマホ・ネットにまつわる保護者の不安や疑問に応えられる知識を身につけてみませんか」

乳幼児支援者研修会(オンライン)を6月16日と20日の2回開催し、34名の参加でした。今回の研修会は、子どもたちのスマホやネット利用の長時間化やそれに伴う健康被害の深刻さを考えると、児童生徒やその保護者への啓発では遅いのではないかと考え、予防教育として乳幼児に関わる全ての方々にスマホ・ネットの子どもへの影響を知ってほしいとの思いから企画しました。THInet 教材開発委員会、子どものネットリスク教育研究会専門委員会乳幼児部門、群馬大学社会情報学部伊藤賢一科学研究費研究プロジェクトチーム、子どもとメディア関東、NPO ファミリーサポート金の鈴、NPO 法人ネットポリス鹿児島、島根県小児科医会メディア対策委員会の7団体で実行委員会を組織し進めてきました。実行委員会形式で企画・運営する研修会は初めての試みでしたが、複数人でプログラムを作成することで、より良い内容になったと感じています。実行委員から工夫したことや感想を報告します。〔実行委員長：矢野さと子〕



「乳幼児のメディア接触の実態と 児童・生徒のネットに関する現状」

エビデンスに基づいて効果的に伝えることを意識して資料作成・発表を行い、その中で私自身も気づきがありました。例えば、保育園のアンケート結果を用いることで、実際の保護者の悩み、不安に寄り添うことの大切さも改めて感じました。またネット依存の事例を紹介することで、長時間化や依存を予防することだけでなく、家族関係や子どもへの関わり方の重要性も伝えることができました。貴重な機会をありがとうございました。

〔講演者：森山 沙耶〕

各論(1)「脳への影響」

脳のスライドは、成田奈緒子先生の本をベースに、「子育ては脳育て」というテーマで作成しました。特に、成田先生が、乳幼児期の発達に最も大切と言われている「セロトニン神経を育てる」という事を伝えられるように考えました。ネット上では思い通りのイラストが見つからず自分で描いたので、余計に時間がかかりました。成田先生の本は、乳幼児期の脳の発達が本当に大切なのだと改めてわかり、自分の子育ての時に出会いたい本でした。

〔講演者：伊藤 理恵〕

参加者の感想(アンケートから抜粋)

- グループセッションでは、いろいろな立場でこのテーマに関わっていらっしゃる方々と知り合うことで(意見交換)ができ、とても充実していました。
 - 両眼視機能の良好な発達についての説明があり、大人と子どもの眼の大きな違いを今さらながら再確認しました。
- 自分が視覚の話をするときには、必ず話したいと思いました。



各論(2)「視神経への影響」

視覚に係わるスライドを作るために発達の本を読み始めた頃、我が家に新しい家族がやってきました。

私は、これ幸いとばかりに本を片手に観察の日々が始まりました。孫に声をかけるとき横から声をかけるとビクッとするので、顔と認識させるため正面から一呼吸おいて声をかけるようにしたところ、微笑みを返してくれました。身近に孫がいて、いかに視覚機能が未熟で生まれてくるか本だけでは理解できないことも学ぶことができました。〔講演者：水野 史代〕

各論(3)「睡眠、運動器への影響(遊びの重要性も含め)」

「乳幼児のデジタルメディア接触に早く警鐘を」との思いから実行委員会に参加したものの、未知の分野のお手伝いで、他の委員の方に頼り切りでした。スライド制作で最も困ったのが「エビデンスの少なさ」です。学童期のデータを基に逆算して、乳幼児期に発達すべき部分の未発達に関係しているのでは、という論法で話を構築していきました。それでも伝えたい話題が多くスライドを削るのに一苦労しました。改めて啓発の必要性を痛感させられました。〔増田 淑子〕

ご意見・ご感想をお寄せいただくと幸いです。

連絡先：養成協 HP よりメール(燈火編集長 矢野宛)